

経営戦略立案シート

20xx年 1月25日

部 名

氏 名

社 長 徳川 武蔵

		過 去	現 在	将 来
環境変化とインパクト分析		<p>環 境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地中連壁：公共事業縮減、首都圏内大型工事減 ・ダムグラウト：環境、事業予算見直しにより縮小 ・オープンS：採用増、規模細分化、年度後半集中 ・汚泥水処理：環境重視から期待できる分野 ・拡底杭：現状以上期待薄いが、重視したい分野 	<p>環 境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地中連壁：首都圏内大型工事減、工法見直し出件遅れる。 ・ダムグラウト：地方重視予算で期待感あり。 ・オープンS：自治体関心ある工法、出件増加傾向 ・汚泥水処理：湖沼浄化のニーズ、中期的取り組みを要す。 ・流動化処理：建設残土のリサイクル関心深まる。 <p>有拡底杭：規模小、出件数増加傾向にあり。</p>	<p>当社に関連した環境変化と予想される事項 [⊕ 機会, 強み, ⊖ 警戒, 弱み]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共事業の縮減、環境影響の再評価により、当社の主要な受注分野のプロジェクトが見直され「ダムグラウト、地中連壁工事」等が縮減・出件延期等により受注状況は厳しい状況にある。⊖ ・当社の主要な技術（ダムグラウト、地中連壁、地盤改良）に続く技術の整備が遅れているが、建設残土の流動化術が神戸市のプロジェクトに採用され運転開始およびPR活動の結果地方の自治体の関心が確認でき今後活動方針に目途がついた。⊕ <p style="text-align: center;">↓</p>
経営課題と基本戦略		<p>経営戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MH 建設グループが受注したダム工事のグラウト地中連壁工事の施工を担当し技術レベルアップによりグループに貢献する。 ・営業活動に協力し MH 建設グループから受注 	<p>経営戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MH 建設依存型からの脱皮を目指しグループ外からの受注を図る。 ・営業体制を強化して新しい顧客の開拓を目指す ・顧客の要望に応えられる技術の研究開発体制強化 	<p>経営戦略 [こうしたい] ⇔ 基本戦略 [基本はこうしよう]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流動化処理プロジェクトに関する情報を収集して MH 建設に提供し営業活動に協力して受注に結びつける。 ・オープンシルド、拡底杭の全国展開に対応できる施工体制を強化する。 ・東北地方の営業基盤を強化し業務範囲を拡大し受注確保と平準化を図る。 ・ダムグラウト、地中連壁技術は当社の主要技術であり、今後とも技術力のアップと伝承に努める。 <p style="text-align: center;">↓</p>
企 業 体 質	事業構造	<p>受注構成比率 (xx 年～xx 年、平均)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MH 建設グループからの受注比率：90% ・主要技術 (ダムG、地中連壁、地盤改良)：70% ・A工事の受注比率：20% ・B工事の受注比率：45% 	<p>受注構成比率 (xx 年、見込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MH 建設グループからの受注比率：89% ・主要技術 (ダムG、地中連壁、地盤改良)：64% ・A工事の受注比率：27% ・B工事の受注比率：42% 	<p>経営戦略 [具体的にこうしていこう]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期的受注構成比率設定 (AB工事受注比率：90%、A工事の受注比率：25%) ・営業重視の組織及び支店、出張所の営業活動の支援体制強化 ・A工事に対応出来る施工体制 (技術交流、研修等による人材育成と教育カリキュラムの作成) ・新しい技術研究、開発の体制整備により技術メニューの充実 (保有技術の組み合わせ等による新しい技術など)
	管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・本店を中心とした施工重視の体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・本店、支店、出張所のネットワークを重視した3拠点体制 ・施工および営業重視の管理体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・支店、出張所の責任と権限を明確にして顧客の要望に即応できる管理体制の整備 ・OA化を推進して情報の共有化と対応のスピード化を図る。 ・20xx年度を最終到達目標として「本店、2支店体制」を構築する。 ・新しい業務分野を広げるための技術開発、研究の体制を強化する。
	企業風土	<ul style="list-style-type: none"> ・技術志向だが営業活動はMH建設グループ依存体質 (会社設立当時の経緯あり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・MH建設グループへの依存体質から「社会から存在が認められる企業」への脱皮を目指す。 ・新しい技術に挑戦する技術志向 	<ul style="list-style-type: none"> ・「営業第一主義」を目指して体制整備と意識徹底を図る。 ・技術の開発、研究体制の整備と能力開発により人材を育成する。 ・MH建設への依存体質から脱皮を目指し「営業第一主義」に徹した体制を目指す。 ・技術開発、研究投資に応えられる利益確保のための創意工夫と改善提案を活発にしてコスト削減 ・組織の活性化と品質重視の管理体制を目指す。